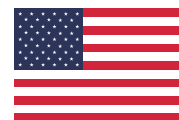


# 米 国



## 1 農・畜産業の概況

米国経済における農業の位置付けは、他産業の発展に伴い低下傾向にあるが、2013年のGDPに占める農業生産の割合は4.8%（前年比0.1ポイント増）と、前年並みとなった。

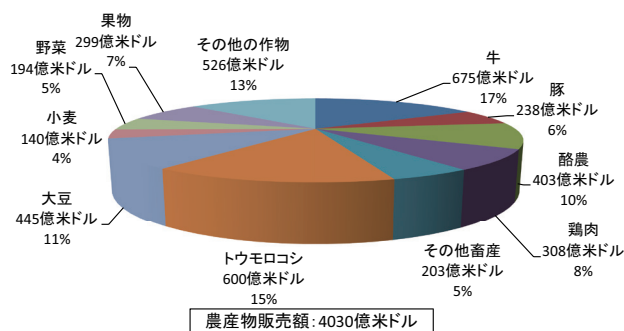
一方、2013年の農業生産額は、前年と同様、中国およびインドに次いで第3位となり、依然、米国農業の影響力は、高い水準にある。

2013年の農産物販売額（現金収入。自家消費分を除く）は、4030億米ドルと前年を0.9%上回った（図1）。

このうち、作物部門は2204億米ドルで、前年比4.0%減となり、特にトウモロコシは豊作により価格が下落したことから同16.8%減となった。畜産部門は、1826億米ドル（同7.6%増）となり、農産物全体に占めるシェアは、前年を2.8ポイント上回る45.3%となった。

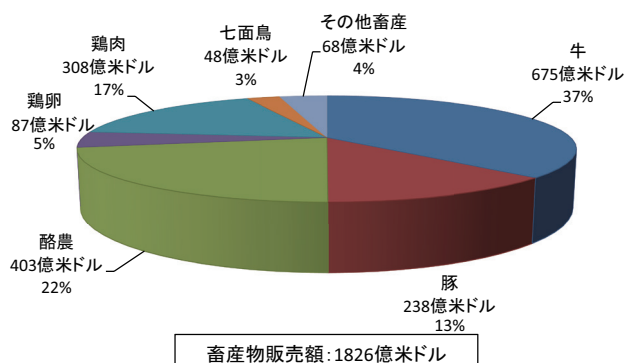
畜産物販売額を見ると、肉用牛が675億米ドル（農産物全体に占める割合は16.7%）と第1位で、次いで酪農が403億米ドル（同10.0%）となった（図2）。また、作物部門では、生産量の約4割が家畜飼料に仕向けられるトウモロコシの販売額が600億米ドル（同14.9%）と最大であり、飼料作物を含めた畜産部門は、米国農業で大きな比重を持っている。

図1 農産物販売額（2013年）



資料：USDA「United States and State Farm Income Data」  
注：暫定値。

図2 畜産物販売額（2013年）



資料：USDA「United States and State Farm Income Data」  
注：暫定値。

## 2 畜産の動向

### (1) 酪農・乳業

米国は、年間9000万トンを超える生乳を生産する世界最大級の酪農国である。しかし、国内に巨大な消費市場を抱えていることなどから、国際乳製品市場での米国の位置付けは、さほど高いものではない。

#### ①主要な政策

酪農の主な制度には、連邦生乳マーケティング・オーダー制度(FMMO)と乳製品価格支持制度(DPPSP)がある。FMMOは、オーダー(生乳取引地域)内で取り引きされる生乳について、それを飲用向けと加工向け3分類の計4分類の用途に分け、それぞれの最低取引価格を設定するとともに、生乳取扱業者に対して、生産者へのプール乳価(用途別乳価を加重平均した乳価)の支払いを義務付けている。これにより、生産者に対しては、安定的な収入を確保できるようにすること、また、消費者に対しては合理的な価格で牛乳・乳製品を供給することを目的としている。2000年1月からは、<sup>うきよくせつ</sup>紆余曲折を経て、①オーダー数の再編統合(当初の31地域が段階的に再編され、2004年4月に10地域となった)、②生乳の用途区分の再分類(3区分から4区分へ)、③最低取引価格の設定に用いられる価格について、これまでの基礎公式価格(BFP)に代えて、多成分価格形成システムに基づく新基礎価格の導入、などの変更が加えられた。

一方、DPPSPは、米国農務省(USDA)の一機関である商品金融公社(CCC)が、支持価格でチーズ、バターおよび脱脂粉乳を買い上げることにより、加工原料乳の価格を間接的に支持する制度である。

この制度は2008年農業法で、これまでの加工原料乳価格支持制度の仕組みを実質的に維持した上で、名称を「乳製品価格支持制度」に改め、加工原料乳の支持価格を廃止して主要乳製品の支持価格を法律で定める制度へ変更された。

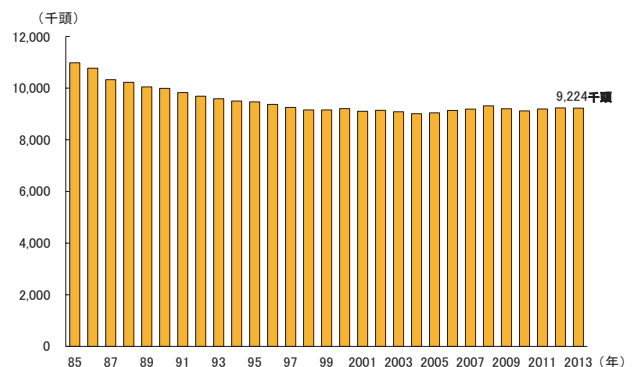
なお、2014年農業法では、乳製品価格支持制度は廃止され、乳製品寄贈制度(DPDP)に置き換わっている。これは、一定の経済状況下でUSDAが乳製品を買い上げることが許容し、購買した乳製品を低所得者層へ寄贈するものである。

#### ②生乳の生産動向

##### ア 飼養頭数

経産牛飼養頭数は、1980年代中頃から一貫して減少傾向で推移してきたが、1999年に下げ止まった後は、小幅な増減を繰り返し、2013年は、前年同の922万4000頭となった(図3)。

図3 経産牛飼養頭数の推移



資料：USDA「Milk Production, Disposition and Income」

##### イ 生産量

2013年の生乳生産量は、1頭当たり乳量のわずかな増加を受け、9127万6000トン(前年比0.3%増)とわずかに増加し、4年連続で前年を上回った(表1)。

表1 生乳・乳製品の生産量

(単位：千トン)

区分/年	2009	2010	2011	2012	2013
生乳	85,880	87,474	88,978	90,962	91,276
バター	713	709	821	843	845
脱脂粉乳	686	709	689	800	670
チーズ	4,570	4,737	4,809	4,938	5,036

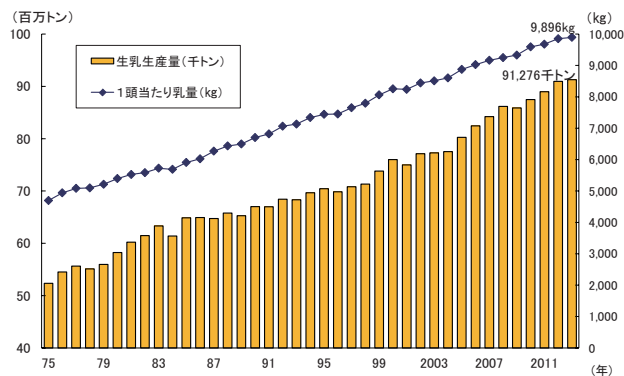
資料：USDA「Milk Production, Disposition and Income」、[Dairy Products]

注：チーズはカッテージチーズを除く。

## ウ 経産牛1頭当たり乳量

経産牛1頭当たり乳量は増加傾向で推移しており、2013年では、9896キログラム（前年比0.4%増）とわずかに増加した（図4）。

図4 生乳生産量と1頭当たり乳量の推移



資料：USDA「Milk Production, Disposition and Income」

## エ 地域別生産動向

生乳は、全ての州で生産されているが、生産量の5割強は上位5州（カリフォルニア、ウィスコンシン、ニューヨーク、アイダホ、ペンシルバニア）で占められており、上位10州（6位以下：テキサス、ミシガン、ミネソタ、ニューメキシコ、ワシントン）では、全体の7割強を占めている。

さらに一部の州では、安価な労働力の確保を背景とした大規模化が進んでおり、当該地域を代表するカリフォルニア州は、1993年にウィスコンシン州を抜いて国内最大の生乳生産州となり、その後も生産を拡大してきた。しかしながら、同州の生乳生産量は、2008年終盤の国際乳製品価格の暴落を受けて、2009年には1792万トン（前年比4.1%減）となった。その後回復し、2012年まで増加傾向で推移したものの、2013年は飼料穀物価格高騰の影響を受けて1871万3000トン（同1.3%減）とわずかに減少した。また、第2位のウィスコンシン州の生乳生産量は、1250万6000トン（同1.3%増）となっている。



酪農家での乳牛飼養風景

## ③牛乳・乳製品の需給動向

### ア 生産動向

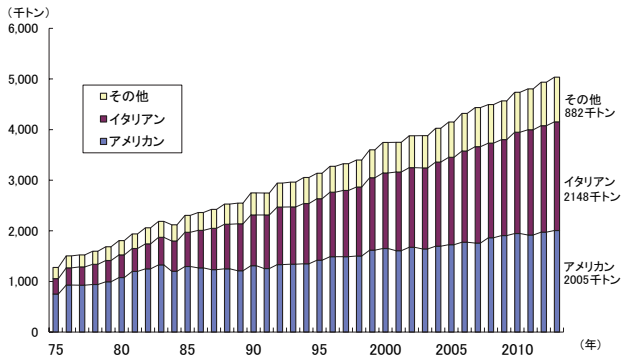
2013年のチーズの生産量（カッテージチーズを除く。）は、堅調な輸出需要などに支えられ前年比2.7%増の503万6000トンとなった（図5）。このうち、チェダーチーズを中心とするアメリカンタイプ<sup>(注1)</sup>は、200万5000トン（同1.5%増）となり、モッツァレラチーズなどイタリアンタイプ<sup>(注2)</sup>は、214万8000トン（同2.2%増）となった。イタリアンタイプは、宅配ピザやファストフードでの需要増により、過去20年以上増加基調で推移している。同年のチーズ生産量に占める割合は、アメリカンタイプが39.8%（前年比0.2ポイント減）、イタリアンタイプが42.7%（同0.1ポイント増）となった。

一方、脱脂粉乳の生産量は67万トン（前年比16.2%減）と減少し、バターの生産量は84万5000トン（同0.2%増）となった。

(注1) アメリカンタイプには、チェダー、コルビー、モントレージャックなどを含む。

(注2) イタリアンタイプには、モッツァレラ、バルメザン、プロヴォローネ、リコッタ、ロマーリオなどを含む。

図5 チーズ生産量の推移



資料：USDA「Dairy Products」

イ 消費動向

1人当たり年間飲用乳消費量（製品ベース、以下同じ）は、ほかの飲料との競合などにより、近年、おおむね減少傾向で推移しており、2013年は74.9キログラム（前年比2.9%減）となった。なお、飲用乳の消費は、近年の健康志向を反映し、低脂肪牛乳、脱脂牛乳など、低脂肪タイプへの移行が進んでいる。

一方、1人当たり年間チーズ消費量（カッテージチーズを除く。）は、近年、増加傾向で推移しており、2013年は15.1キログラム（前年比0.4%増）となった。また、1人当たり年間バター消費量は、2.5キログラム（前年比0.3%減）となった。

④牛乳・乳製品の価格動向

ア 生乳価格

2013年の生乳の生産者販売価格は、100ポンド当たり20.04ドル（前年比8.2%高）と、大きく落ち込んだ2009年以降、概ね堅調に推移している（表2）。なお、加工原料乳の生産者販売価格は、2011年3月以降、公表されていない。

表2 生乳の生産者販売価格

（単位：ドル／100ポンド）

区分／年	2009	2010	2011	2012	2013
加工原料乳価格	12.03	14.56	—	—	—
生乳平均価格	12.84	16.28	20.14	18.52	20.04

資料：USDA「Agricultural Price」

注1：加工原料乳価格は、グレードBの加工規格の生乳価格。

2：2011年以降の加工原料乳価格は、公表がないため「—」としている。

イ 乳製品の卸売価格

2013年のチェダーチーズの卸売価格は、輸出を中心とした堅調な需要により1ポンド当たり176.4米セント（前年比3.9%高）となった。また、脱脂粉乳は、メキシコ向け輸出が好調な上、生産量が減少したことから同170.3米セント（同26.4%高）と大幅に上昇した。一方、バターは同155.6米セント（同2.9%安）となった（表3）。

表3 乳製品の卸売価格の推移

（単位：セント／ポンド）

区分／年	2009	2010	2011	2012	2013
バター	124.3	172.8	196.2	160.3	155.6
脱脂粉乳	95.2	119.7	151.7	134.7	170.3
チェダーチーズ	125.2	149.6	180.6	169.8	176.4

資料：USDA「Dairy Market News」

注1：バターはシカゴ・マーカンタイル取引所の現物価格（グレードAA）。

2：脱脂粉乳は西部のFOB価格。

3：チーズはシカゴ・マーカンタイル取引所の現物価格。



小売店でのチーズの陳列風景

### ⑤乳製品の政府買い上げ

2013年は、堅調な輸出需要を反映して米国内の乳製品価格が堅調に推移したことから、CCCによる余剰乳製品の買い上げは3年連続で実施されなかった(表4)。なお、DPPSPは2013年9月で廃止されたことから、以後同プログラム下での政府による乳製品の買い上げは実施されていない。

表4 乳製品の政府買い上げ数量の推移

(単位：千トン)

区分/年	2009	2010	2011	2012	2013
バター	12.9	2.3	—	—	—
チーズ	1.5	0.1	—	—	—
脱脂粉乳	104.2	0	—	—	—
乳脂肪分ベース (生乳換算量)	318.9	50.8	—	—	—
無脂乳固形分ベース (生乳換算量)	1,230.6	1.4	—	—	—

資料：USDA「Dairy Data」

## (2) 肉牛・牛肉産業

米国は、世界の牛肉生産量の約2割を占める最大の牛肉生産国であると同時に、世界最大の牛肉輸入国でもある。国内的にも、肉牛産業は農産物販売額に占める割合が最大となっており、米国農業の中でも最も重要な部門の一つである。

肉用子牛生産は、家族経営による生産・管理が行われる一方、育成された肥育もと牛は、大規模なフィードロットで効率的な穀物肥育が行われている。また、肉牛の流通面では、大手パッカーによる寡占化が顕著となっている。

### ①肉牛の生産動向

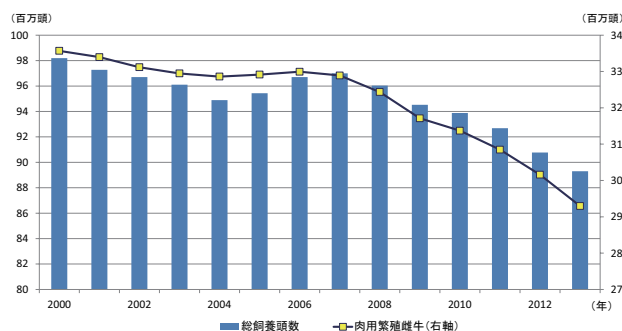
2013年1月1日時点の牛の飼養頭数は、前年比1.6%減の8930万頭となり、9000万頭を割り込んだ。米国のキャトルサイクルは、1996年をピークに8年連続で減少した後、2005年にはいったん上昇局面に転じた。

しかし、2006年後半以降の飼料コスト高および2011年以降の干ばつなどにより、肉用牛繁殖経営の収益性が悪化し、肉用繁殖雌牛を中心に淘汰が進んだことから、飼養頭数は減少傾向で推移している。

2013年1月1日現在の飼養頭数の内訳を見ると、肉用繁殖雌牛は前年比2.9%減の2930万頭と、7年連続で減少した。また、500ポンド(約227キログラム)以上の肉用繁殖後継牛は、538万頭(同2.3%増)となったものの、依然低水準となった。

他方、2013年の子牛生産頭数(乳用種を含む。)は、長期的に肉用繁殖雌牛の飼養頭数が減少傾向で推移していることから、前年比1.6%減の3373万頭となった。

図6 牛飼養頭数の推移



資料：USDA「Cattle」

注：各年1月1日現在。



フィードロットの風景

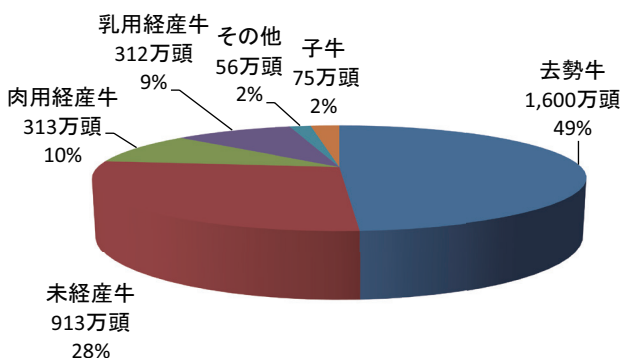
②牛肉の需給動向

ア 生産動向

2013年の成牛と畜頭数（コマーシャルベース）は、前年比1.5%減の3246万頭となった。

種類別（連邦政府検査ベース）では、肉用経産牛は同6.4%減、未經産牛は同1.5%減、去勢牛は同1.0%減となった一方、乳牛経産牛は同0.8%増となった。なお、子牛は同1.1%減とわずかに減少した（図7）。

図7 種類別と畜頭数（2013年）



資料：USDA [Livestock Slaughter]

一方、2013年の成牛のと畜時平均生体重（連邦政府検査ベース）は、肥育牛価格の上昇などを背景に同5.3キログラム増の597.3キログラムとなった。また、平均枝肉重量（連邦政府検査ベース）も361.2キログラムと前年をわずかに上回った。2013年の肥育主要7州（アリゾナ、カリフォルニア、コロラド、アイオワ、カンザス、ネブラスカ、テキサス）の肥育もと牛導入頭数は、1921万頭（同1.1%減）、また、肥育牛出荷頭数は1849万頭（同4.0%減）となった。

2013年の牛肉生産量（枝肉重量ベース）は、と畜頭数の減少により、同0.7%減の1167万トンとなった（表5）。

表5 牛肉需給（枝肉換算）の推移

（単位：千トン）

区分 / 年	2009	2010	2011	2012	2013
生産量	11,778	11,932	11,882	11,754	11,666
輸入量	1,191	1,042	933	1,007	1,020
輸出量	878	1,043	1,263	1,112	1,174
在庫量	256	265	272	276	265
消費量	12,173	11,970	11,584	11,682	11,556
1人当たり消費量 (年間、キログラム)	27.7	27.0	26.0	26.0	26.0

資料：USDA [Livestock, Dairy, and Poultry Outlook : Table]

注：1人当たり消費量は小売重量ベース。

イ 輸出入動向

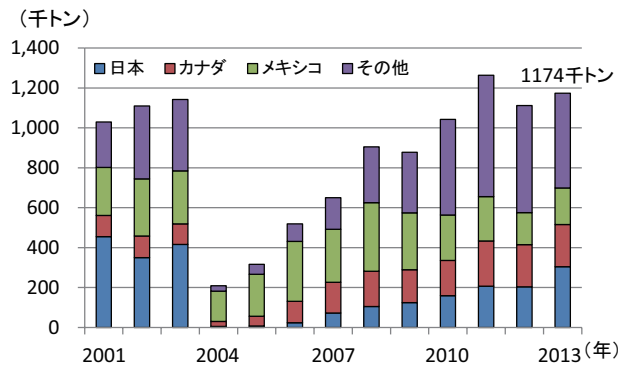
2013年の牛肉輸入量（枝肉重量ベース）は、米国内の減産分を補完する形で前年比1.3%増の102万トンとなった。国別に見ると、最大の輸入先である豪州からは、中国などのアジア向けとの競合により、28万3000トン（前年比4.7%減）と減少した。第2位はカナダで、24万4000トン（同0.1%増）となった。同国は、2011年まで米国にとって最大の輸入相手先であったが、米国同様に繁殖雌牛飼養頭数の減少傾向が続いている中、前年並にとどまった。

一方、同年の生体牛の輸入については、カナダから104万3700頭（前年比28.1%増）となったのに対し、メキシコからは同国で干ばつの影響が緩和され、肥育もと牛の国内需要が高まったことから98万9400頭（同32.6%減）となり、全体では203万3100頭（同10.9%減）とかなりの程度減少した。

2003年12月、米国内で初めてBSEが発生した影響を受け、2004年に大幅に減少した牛肉輸出量は、2005年以降回復傾向にある。2009年および2012年には前年をやや下回ったものの、2013年は117万4000トン（同5.5%増）とやや増加した。国別では、米国産牛肉の輸入月齢制限が緩和された日本向けが30万4000トン（同49.4%増）となり、10年ぶりに最大

輸出先となった。カナダ向けは21万1700トン(同0.1%減)となったが、メキシコ向けは、18万3000トン(同14.7%増)と大幅に増加した(図8)。

図8 牛肉の輸出量と相手国



資料：USDA / ERS [Livestock and Meat Trade Data]

## ウ 消費動向

1人当たり年間牛肉消費量(小売重量ベース)は、価格の上昇や消費者の嗜好の変化により、年々減少傾向で推移しており、2013年は、前年比1.7%減の25.5キログラムとわずかに減少した。

### ③肉牛・牛肉の価格動向

#### ア 肥育もと牛価格

2013年の肥育もと牛価格(オクラホマシティー、600～650ポンド)は、前年比0.4%高の100ポンド当たり158.8米ドルとなった(表6)。

#### イ 肥育牛価格

2013年のチョイス級<sup>(注)</sup>肥育牛価格(ネブラスカ、1100～1300ポンド、去勢牛)は、前年比2.5%高の100ポンド当たり126.2米ドルとなり、わずかに上昇した。これは、主に繁殖雌牛頭数減により肥育牛頭数が減少したことが要因と考えられる。

(注)肉質等級のうち、上から2番目の等級

## ウ 牛肉卸売価格

2013年の卸売価格(チョイス級、600～900ポンド、カットアウトバリュー)は、前年比2.6%高の100ポンド当たり195.6米ドルとなった。

## エ 牛肉小売価格

2013年の平均牛肉小売価格(チョイス級)は、前年比5.6%高の1ポンド当たり530.3米セントとなった。

表6 肉牛、牛肉の価格の推移

(単位：ドル/100ポンド)

区分/年	2009	2010	2011	2012	2013
肥育もと牛	101.9	115.1	141.2	158.2	158.8
肥育牛	82.7	95.0	115.2	123.1	126.2
牛肉卸売価格 (カットアウトバリュー)	140.8	156.9	181.3	190.7	195.6
牛肉小売価格 (セント/ポンド)	426.0	439.4	482.7	502.3	530.3

資料：USDA [Livestock, Dairy and Poultry Situation and Outlook : Table]

注：カットアウトバリューとは、各部分肉の卸売価格を1頭分の枝肉に再構成した卸売指標価格。枝肉そのものではない。

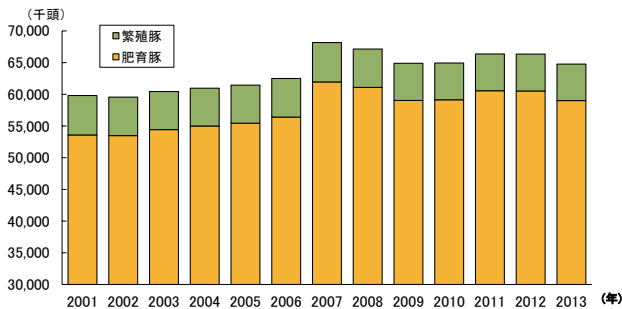
## (3) 養豚・豚肉産業

米国の養豚産業は、アイオワ州やイリノイ州を中心とするコーンベルト地帯で、伝統的に穀物生産や肉牛経営の副業として営まれてきた。一方、ノースカロライナ州やオクラホマ州でインテグレーションが出現し、養豚産業に対して、生産・流通などの面で大きな変化をもたらされた。また、各州で環境規制を強化する動きがみられ、大規模経営体による環境問題も顕在化している。

### ①豚の生産動向

豚飼養頭数は、2003年以降、増加傾向で推移していたが、2007年をピークに減少に転じた後、2010年以降再び増加傾向で推移した。しかし、2013年(12月1日現在)は、前年比2.4%減の6478万頭と減少に転じた(図9)。飼養頭数の内訳を見ると、繁殖豚は575万7000頭(前年比1.0%減)に、また、肥育豚は5901万8000頭(同2.5%減)となった。

図9 繁殖豚および肥育豚飼養頭数



資料：USDA「Quarterly Hogs and Pigs」

2013年の子豚生産頭数は、一腹当たり産子数が10.22頭(同1.4%増)となったものの、以前の飼料穀物高による収益性の悪化により繁殖母豚が減少したことを受けて、1億114万頭(同1.4%減)となった。



肉豚の飼養風景

②豚肉の需給動向

ア 生産動向

2013年のと畜頭数(コマーシャルベース)は、収益性の悪化および豚流行性下痢(PE D)の発生による肥育豚飼養頭数の減少により1億1208万頭(前年比1.0%減)となり、豚肉生産量も1052万トン(同0.3%減)に減少した(表7)。

なお、2013年のと畜時平均生体重(連邦政府検査ベース)は、125.2キログラム(同0.4%増)、また、平均枝肉重量(同)は、93.9キログラム(同0.5%増)となった。

表7 豚肉需給(枝肉換算)の推移

(単位：千トン)

区分/年	2009	2010	2011	2012	2013
生産量	10,432	10,189	10,331	10,547	10,517
輸入量	378	390	364	364	399
輸出量	1,857	1,915	2,354	2,440	2,262
在庫量	238	245	246	283	280
消費量	9,013	8,653	8,341	8,440	8,665
1人当たり消費量(年間、キログラム)	22.8	21.7	20.7	20.8	21.2

資料：USDA / ERS「Livestock and Meat Trade Data」

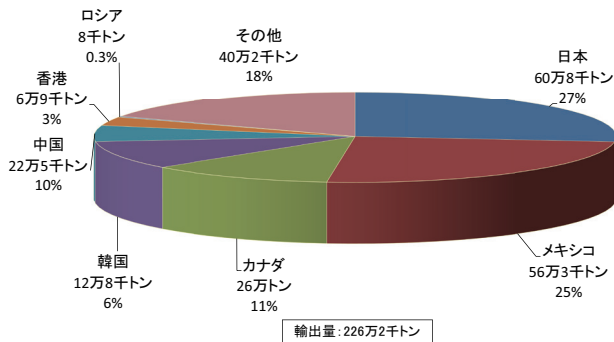
注：1人当たり消費量は小売重量ベース。

イ 輸出入動向

輸出量(枝肉重量ベース)は、1991年以降、前年を上回って推移したものの、2009年は世界的な景気の後退による需要の減退や、豚での新型インフルエンザ(H1N1)発生に伴う各国の輸入禁止措置により、一時的に減少した。2010年以降は各国の輸入再開により、増加傾向で推移したものの、2013年はPE Dの発生に伴う、国内生産量の減少により226万2000トン(前年比7.3%減)となった。国別に見ると、最大の輸出先であり全体の26.9%を占める日本向けは60万8000トン(同2.8%減)と減少した。第2位のメキシコ向けは、価格帯の安い豚肉を中心に好調であったことから、56万3000トン(同6.6%増)と、2008年以降増加傾向で推移している(図10)。次いでカナダ向けは26万トン(同2.2%減)、中国向けは22万5000トン(同22.3%減)となった。



図 10 豚肉の輸出相手国 (2013 年)

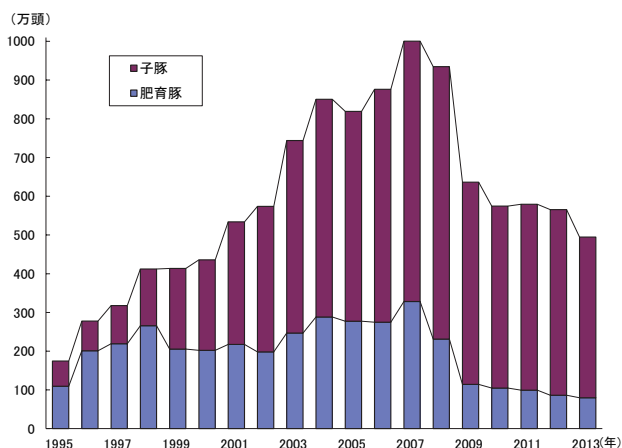


資料：USDA 「Livestock, Dairy and Poultry Situation and Outlook」

一方、豚肉の輸入量（枝肉重量ベース）は、2009 年以降、30 万トン台後半で安定的に推移してきたが、2013 年は、豚肉生産量の減少により 39 万 9000 トン（前年比 9.7%増）と大きく増加した。国別に見ると、カナダが 32 万 1000 トン（同 12.5%増（総輸入量に占める割合は 80.4%））とかなり大きく増加したものの、デンマークは 3 万トン（同 12.4%減（同 7.5%））と減少となった。

また、生体豚の輸入は、ほぼ 100%がカナダからである。同国からの輸入頭数は、同国の飼養頭数の減少や 2008 年 9 月末から実施された食肉の原産地表示（COOL）の強化などの影響などにより、2013 年は、494 万 7800 頭（同 12.5%減）となった（図 11）。

図 11 カナダからの生体豚輸入頭数の推移



資料：USDA / ERS 「Livestock and Meat Trade Data」

## ウ 消費動向

1 人当たり年間豚肉消費量（小売重量ベース）は、ほぼ横ばいで推移していたが、2013 年は豚肉生産量の減少により、豚肉価格が上昇したものの、高値で推移する牛肉からの代替需要により 21.2 キログラム（前年比 1.9%増）とわずかに増加した。

## ③肥育豚・豚肉の価格動向

### ア 肥育豚価格

肥育豚価格は、2005 年以降、生産量の増加などにより低下傾向となり、2009 年には世界的な景気の後退や新型インフルエンザなどによる内需・外需の減退から、100 ポンド当たり 41.2 米ドルに下落した。しかし、2011 年は、輸出需要の高まりなどにより、過去最高値を記録し、2012 年も同 60 米ドル台の高値を維持した。2013 年は、PED の発生により肥育豚の飼養頭数が減少したことから、同 64.0 米ドルと引き続き高値で推移した（表 8）。

表 8 肥育豚、豚肉の価格の推移

（単位：ドル/100ポンド）

区分	2009	2010	2011	2012	2013
肥育豚	41.2	55.1	66.1	61.1	64.0
豚肉卸売価格 (カットアウトバリュー)	58.1	81.3	93.7	84.5	91.7
豚肉小売価格 (セント/ポンド)	292.0	311.4	343.4	346.7	362.7

資料：USDA 「Livestock, Dairy and Poultry Situation and Outlook : Table」

注 1：肥育豚価格は、全米の平均価格。

注 2：カットアウトバリューとは、各部分肉の卸売価格を 1 頭分の枝肉に再構成した卸売指標価格。枝肉そのものではない。

### イ 豚肉価格

2013 年の部分肉卸売価格（カットアウトバリュー）は、100 ポンド当たり 91.7 米ドル（前年比 8.5%高）となった。

また、平均の豚肉小売価格は、豚肉生産量の減少に加え、国内消費が好調に推移したことから、1 ポンド当たり 362.7 米セント（前年比 4.6%高）と過去最高値を記録した。

## (4) 養鶏・鶏肉産業

米国の養鶏産業は、飼料穀物の一大生産国という利点を生かした生産から流通までの一貫したインテグレーションの進展により、極めて効率的な生産が行われている。また、国内では、消費者の健康志向からむね肉を中心として消費を大きく伸ばすと同時に、不要部位のむね肉を中心に、鶏肉生産量の2割弱を輸出している。

### ①ブロイラーのふ化羽数の動向

2013年のブロイラーふ化羽数は、ブロイラー価格(生体1ポンド当たりの生産者販売価格)が前年を上回って推移した上、飼料穀物価格が下落したことなどから、前年比1.0%増の90億7876万羽となった。

### ②鶏肉の需給動向

#### ア 生産動向

2013年のブロイラー生産量は、飼料価格の下落に伴い増羽が進んだことなどから、前年比2.1%増の1697万6000トンとなった(表9)。1羽当たりの平均重量(生体ベース)は、骨なしむね肉の需要増に伴うブロイラーの大型化を背景に近年増加傾向にあり、2013年は2.69キログラム(前年比1.2%増)となった。

表9 ブロイラー需給(可食処理ベース)の推移

(単位：千トン)

区分/年	2009	2010	2011	2012	2013
生産量	15,935	16,563	16,694	16,621	16,976
輸入量	45	48	49	51	55
輸出量	3,093	3,067	3,165	3,299	3,332
在庫量	279	350	268	295	303
消費量	12,946	13,473	13,660	13,345	13,691
1人当たり消費量 (年間、キログラム)	36.2	37.4	37.6	36.4	37.1

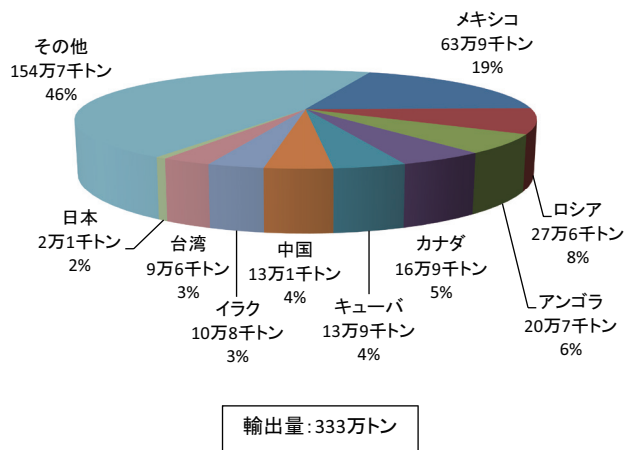
資料：USDA [Livestock, Dairy and Poultry Outlook : Table]

注：1人当たり消費量は小売重量ベース。

#### イ 輸出動向

ブロイラーの輸出量は、2005年以降増加傾向で推移し、2009年に減少に転じたものの、2011年には好調な輸出需要を背景に再び増加に転じ、2013年は前年比1.0%増の333万トンとなった。輸出先上位3カ国を見ると、メキシコ向けは同13.9%増、ロシア向けは同3.4%増、アンゴラ向けは13.7%増となった(図12)。

図12 鶏肉の輸出相手国(2013年)



資料：USDA [Livestock, Dairy, and Poultry Situation and Outlook]

#### ウ 消費動向

1人当たり年間鶏肉消費量(小売重量ベース)は、牛肉や豚肉価格の上昇により安価な鶏肉へと需要がシフトしたことなどから、2013年は前年比1.8%増の37.1キログラムとなった。

### ③ブロイラーの価格動向

#### ア ブロイラー価格

2013年のブロイラー価格は、牛肉や豚肉からの代替需要により需給が引き締まったことから、前年比16.4%高の1ポンド当たり60.3米セントとなった(表10)。

## イ 鶏肉価格

## a. 卸売価格

2013年のプロイラーの丸どり卸売価格（中抜き、12都市平均）は、前年比14.5%高の1ポンド当たり99.7米セントとなった。なお、国内向けが主体となっているむね肉が1ポンド当たり155.1米セント（同14.9%高）、輸出向けが主体のもも肉は同68.4セント（同2.4%高）といずれも上昇した。

## b. 小売価格

プロイラーの丸どり小売価格（中抜き）は、前年比5.2%高の1ポンド当たり149.6米セントとなった。

表10 プロイラー、鶏肉価格の推移

(単位：セント/ポンド)

区分/年	2009	2010	2011	2012	2013
生産者販売価格 (生体)	45.2	49.1	46.7	51.8	60.3
卸売価格 (丸どり)	77.6	82.9	79.0	87.1	99.7
丸どり小売価格	127.8	126.3	129.1	142.2	149.6

資料：USDA「Livestock, Dairy, and Poultry Outlook : Table」

## (5) 飼料穀物

米国は、世界最大の飼料穀物の生産・輸出国である。飼料穀物の主力であるトウモロコシは、世界の生産量の約4割、世界の貿易量の約4割を占めていることから、世界の需給動向に与える影響力は極めて大きなものとなっている。

## ① 穀物の生産動向

2013/14年度（9月～翌8月）のトウモロコシ（サイレージ用を除く）の生産量は138億2900万ブッシェル（3億5126万トン）、（前年度比28.6%増）と、前年度を大幅に上回った（表11）。これは、好天に恵まれたことに加え、前年度の生産量が干ばつの影響により大幅に減少したことの反動により、1エーカー（約0.4ヘクタール）当たりの収量が158.1ブッシェル（1ヘクタール当たり10.0トン）、（同28.4%増）と、前年度を大幅に上回ったことが主な要因である。2013/14年度期末在庫は、供給量が需要を上回ったことにより12億3200万ブッシェル（3129万トン）（同50.1%増）と大幅に増加した。

表11 トウモロコシ需給の推移

(単位：百万トン)

区分/年度	09/10	10/11	11/12	12/13	13/14
生産量	332	316	313	273	351
国内消費量	281	285	278	263	293
うち飼料向け	130	121	115	110	128
輸出量	50	47	39	19	49
期末在庫量	43	29	25	21	31

資料：USDA「Livestock, Dairy, and Poultry Outlook : Table」



トウモロコシの収穫風景

## ② 穀物の輸出動向

2013/14年度のトウモロコシの輸出量は、生産量の増加を反映して19億2000万ブッシェル（4900万トン）、（前年度比163.0%増）と大幅に増加した。このうち、最大の輸出先国である日本向けも、1200万トン（同73.9%増）と大幅に増加した。

## ③ 穀物の価格動向

2013/14年度のトウモロコシの生産者販売価格は、好天に恵まれ生産量が増加したことから、1ブッシェル当たり4.46米ドル（前年度比35.3%安）となった（表12）。

表12 トウモロコシ価格の推移

(単位：ドル/ブッシェル)

区分/年度	09/10	10/11	11/12	12/13	13/14
生産者販売価格	3.55	5.18	6.22	6.89	4.46

資料：USDA「Livestock, Dairy, and Poultry Outlook : Table」